

令和2年9月24日

正 会 員 各 位

一般社団法人 全国LPガス協会
会 長 秋 元 耕 一 郎

業務用厨房施設に関するガス警報器の設置および
ガスメータとの連動遮断の徹底について（お願い）

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は、当協会の活動に格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

本年7月末に発生しました福島県郡山市の飲食店での爆発事故を受けて、経済産業省の要請に基づき、「福島県郡山市での爆発事故の発生を受けた注意喚起等について（お願い）」（令和2年8月6日付け、全L協保安2第23号）の文書を発出させていただきました。

現在、事故の原因究明に関しては、同省において事故調査委員会が設置され議論がなされているところではありますが、未だ明確な情報は入っていません。そのような状況ではありますが、今回の事故に関する社会的影響を踏まえれば、LPガス業界としては再発防止に向けての最大限の取り組みが求められているところでもあります。

つきましては、報道等の情報を踏まえ、現時点における業界としての再発防止対策を下記の通りとりまとめましたので、都道府県協会におかれましては会員に対し、また直接会員におかれましては営業所等に対し、ご周知くださいますようお願いいたします。

また、都道府県協会長及び都道府県協会の保安担当責任者におかれましては、本件に関する活動が促進されるようご協力方ようお願いいたします。

敬具

記

1. 業務用厨房施設のSBメータとガス警報器の連動遮断の促進について

昨年以降、全L協の自主保安運動では、「業務用厨房施設のSBメータとガス警報器の連動遮断の促進」を重点事項として取り組んできた。これを実施していれば、ガスメータが遮断し、事故防止に繋がった可能性があったことから、以下の内容も踏まえ、早急な連動遮断の徹底が必要。

【リスクについて】

- SBメータは、長時間使用に関する遮断機能を有していないため、業務用厨房施設等、夜間無人になる消費先については、なんらかの理由でガスが漏洩した場合、漏洩が継続し、大事故に繋がるリスクが高い。

- また、業務用厨房機器は安全装置を有していないもの場合が多く、一般家庭に比べ漏洩に関するリスクが高い。

【連動遮断の実施に関する近況について】

- 今回の事故以降、業務用厨房施設の管理者等、消費者側からの安全対策に関する要望・問い合わせが増え、消費者の安全対策ニーズが高まっている。
- 連動遮断機能を有するガス警報器の出荷が急激に増加中。本件に積極的に取り組むLPガス販売事業者が増えてきている。

2. 水回り近辺の水の影響を受けやすい場所の配管施工及び腐食確認

- 業務用厨房施設におけるシンクの下など、水の影響を受けやすい部分に配管を通す際は、液石法例示基準第28節1.②(i)(低圧部の露出管配管施工の注意点等)の記載に従い、腐食しやすい白管を用いることなく、被覆鋼管等を用いること。
- 法定点検調査の際には、多湿部や水の影響を受けやすい箇所の配管（特に鋼管等）については、腐食していないか十分に注意して確認すること。

以上